

令和6年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく	今年度の重点目標	1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく (1)進路目標の明確化 (2)基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく (1)基本的生活習慣の確立 (2)部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく (1)学校行事・生徒会活動の充実 (2)教育活動における安全意識・安全技術の向上 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく (1)「地域探究」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 (1)業務の精選と組織的な実施 (2)生徒への適切な対応
-------------------	---	----------	--

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%] [70%程度] [50%程度] [35%程度] [20%以下]

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和5年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	○ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> ・生徒アンケート「私は、進路について明確な目標を持っている」「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○1年生:進路ガイダンス等の行事や進路学習を体系的に行い、キャリア形成を図る取り組みを行った。 ○2年生:3回の進路志望調査を通して進路先候補について比較・調査を行い、キャリア形成の意識が高まりつつある。 ○3年生:総合的な探究の時間を活用し、将来のキャリアを意識した進路別学習を行うことができた。丁寧な担任面談と個別指導により生徒の進路実現が達成できた。 ○全学年:教職員を対象とした小論文指導研修や大学訪問等を通して、多様化する入試制度に対応するために必要な教職員の進路指導力の向上に努めた。 <R5実績> ・生徒アンケート「私は、進路について明確な目標を持っている」・・・81% 「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」・・・85%	○1、2、3年ともに「ふるさとキャリア教育全体計画」をもとに、「総合的な探究の時間」や「LHR」の年間計画を見直し、「地域探究」や進路LHRを通して地域社会の担い手となるための志と具体的なキャリア目標を設定するための意識を高める。 ○1年次より進学希望者に対しては「自己理解」→「学問研究」→「学校研究」、就職希望者に対しては「自己理解」→「業種・分野研究」→「具体的職業調べ」の順に進路学習を行うことで進路意欲を高めるとともに、早期にキャリア形成を促す。 ○引き続き、ボランティア活動や大学等の研修会への参加を奨励し、地域とのつながりを実感することで社会への関心を高め、将来の生き方・在り方を考えるよう促す。 ○「スタディサプリ」を活用し、資格取得や進路志望別に必要な学習教材や面接動画を配信し、学力の定着を図ることでキャリア目標達成につなげる。	○「総合的な探究の時間」と「LHR」は概ね計画通りに進んでいる。細かい変更にも臨機応変に対応し、進めている。 ○1年生は進路適性診断や学部・学科調べを行うとともに、進路ガイダンスを通して進路意識の高揚を図った。類型・科目選択を通して早期のキャリア形成を促している。2年生は現在、自身のキャリアに応じた学問・学校研究、業種・分野研究を進めている。 ○学年団と連携しながら、地域のボランティア活動や夏季休業中の保育・看護体験、大学等の研修会への参加を推奨し、多くの生徒が参加している。高大連携事業である大学進学研修プログラム参加(3年生延べ21名)。部活動単位や社会探究類型生徒によるボランティアの参加があり、地域社会とのつながりを実感する機会が増えた。 ○各学年・教科で「スタディサプリ」を活用し、キャリア実現のために必要な学習教材や動画を計画的に配信することで基礎学力の定着や資格取得を目指している。	B	○1年生:10月実施予定の公立鳥取環境大学研修、12月実施予定の「地元企業に学ぶ」説明会などを通してキャリア意識を高めるとともに、より具体的な志望先を研究していく。 ○2年生:10月の大学等研修を通して具体的な進路決定を進める。 ○3年生:就職試験及び大学・専門学校入試に向けて、個別に添削指導や面接指導を行い、生徒の進路実現のために学校全体で支援を継続していく。
	基礎学力の向上	○どの生徒も授業を大切にし、主体的に授業に取り組んでいる。 <指標> ・生徒アンケート「私は、本校の授業に満足している」「私は、授業に集中して取り組めている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○1年生:リメディアルと学習習慣定着を目的にスタディサプリを活用するとともに習熟度に対応した授業展開や個別指導などを行い、基礎学力の定着に努めた。 ○2年生:授業で学力をつけることを主眼に捉え、習熟度に対応した考査内容・課題提出の徹底、遅進者への学習指導を計画的に行った。 ○3年生:各授業において、定期的に課題を課すとともに小テストを行い、学力の定着を図った。また、大学進学希望者に対して、長期休業中や9月以降の放課後で課外授業を行い、学力向上に努めた。 <R5実績> ・生徒アンケート「私は、本校の授業に満足している」・・・85% 「私は、授業に集中して取り組めている」・・・86%	○1年生:個別面談や授業を通して学習の意義を丁寧に伝え、学習に取り組む姿勢を育てる。 ○2年生:類型・習熟度に応じて、家庭で学習に取り組めるよう適切な課題の提示、小テストの取り組みを継続する。 ○3年生:学力の定着や進路意識を高める進路講演会を行うとともに、具体的な学習目標を設定し、達成感のある学習に取り組むよう支援する。 ○全学年:基礎学力の向上に向けて、全教職員共通理解のもと授業改善に努める。授業「わかる」→課題「できる」→確認テスト「できるを確かめる(実感する)」のサイクルを回す。 ○「スタディサプリ」を活用し、苦手分野克服のための教材や動画も配信することで学び直しを行い、授業が「わかる」ための支援を行う。	○1年生:数・英の授業では習熟度別少人数授業を行い、「わかる」から「できる」授業へつながるよう学習支援を行っている。夏季休業中の課外は、全員を対象に学習への取り組み方も含め、国・数・英の3教科で実施した。 ○2年生:主に未来・社会・スポーツの3類型に分かれて授業を行い、それぞれの進路目標に応じた学習方法を提示し学習意欲向上を促している。 ○3年生:まず授業で、自身の進路目標達成のために必要な学力を身に付けるよう学習を進めている。課外授業や個別指導も継続的に実施している。	C	○1年生:生徒には、個別面談や授業を通して学習の意義を丁寧に伝え、学習に取り組む姿勢を育てる。 ○2年生:習熟度に応じて、家庭で学習に取り組めるよう適切な課題の提示、小テストの取り組みを継続する。 ○3年生:学力の定着や進路意識を高める進路講演会を行うとともに、具体的な学習目標を設定し、達成感のある学習に取り組ませる。 ○全学年:生徒が主体的に学習に取り組む授業を心がけ、教科書の内容の理解を促すとともに、計画的な課題を提示し家庭学習に取り組ませることを通して学習内容の定着を図る。また、「スタディサプリ」の活用状況を教職員間で共有するとともに、志望進路に応じた学習教材や動画を配信する。
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的生活習慣の確立	○生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 <指標> ・生徒アンケート「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○生徒会執行部とともに教室点検を実施した。点検結果を生徒玄関前に掲示し、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。 ○服装検査での指導件数は減少してきている。また、生徒指導については、指導票の活用とともに、保護者への連絡をとりながら、生徒指導を進めている。 <R5実績> ・生徒アンケート「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」・・・97%	○教職員の日々の声かけにとどまらず、保護者への連絡の機会を逃さず行い、基本的習慣の確立、マナー・モラルの向上を図る。 ○生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動を継続していく。 ○定期的に学年間での情報共有を行い、全学年で統一した認識のもと生活指導を行うとともに、機会をとらえて、生徒の規範意識の醸成を図る。 ○生徒会が主体となり、執行部を中心に教室環境の整備や学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取り組みを通して、より良い学校づくりにより主体的に参画する意識が多くの生徒に身に付くよう促す。	○学年団・生徒会と協力し、教室内の学習環境の整備等に努めた。 ○生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動や登校の見守りを継続して行っている。 ○常に保護者への連絡を行い理解と協力を得ながら、生徒指導を進めているが、頭髮・服装や遅刻で指導を受ける生徒が一定数いる。	C	○頭髮・服装指導と合わせて、家庭連絡をその都度行い、家庭と協力して改善を図る。 ○遅刻をしってくる生徒には、個別に指導を行うとともに、家庭への連絡を随時行い、協力して改善を図る。
	部活動の充実	○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身についている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コース及びスポーツ探究類型の生徒は、講演会や講習会を通してトップアスリートを目指し、意識レベルを高めている。 <指標> ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ70名(全校生徒の3割)以上となる。	○体育コースの行事については、3年キャンプ実習、ゴルフ実習、2年生スキーを予定通り実施した。 ○3年体育コース(23名中)で上級学校へ進学する生徒は13名おり、その内4名が競技を継続する。 <R5実績> ・県大会優勝6部。全国大会出場9部、全国大会出場者数のべ70名。	○体育コース及びスポーツ探究類型の各種講演会を計画通り実施していき、競技力向上を促す。 ○トップアスリート講演会及び養成研修を実施することで、現在行っている競技の継続や医療(理学・作業)・福祉系の上級学校への進学意識を高める。 ○強化指定運動部を中心とし、全国レベルで活躍するために必要な競技力及び人間力を高めるために対話を重視した練習を行う。 ○地域ボランティアに積極的に参加するよう促すことで、学習・ボランティアサークルへの加入を促進する。	○運動部では、インターハイにレスリング部、バレーボール部(男子)が出場。文化部では、全国高総文祭に書道部が県の代表として参加した。 ○国民スポーツ大会にビーチバレーボールに2名が出場し、3位入賞を果たした。また、レスリング部と山岳部(クライミング競技)からそれぞれ1名が出場予定である。 ○8月の全国ビーチバレーボール高校男子選手権大会に男子バレー部のペアが出場し、準優勝を果たした。 ○3年体育コース(23名中)上級学校へ進学希望する生徒は12名おり、その内9名(進学7名、就職先2名)が競技を継続する予定である。 〈R6中間実績〉 県大会優勝4部(男子バレー④) 全国大会出場7部(男子バレー③、レスリング②、山岳、書道) 全国大会出場者数のべ21名	B	○部活動未加入者(中途退部者も含め)を把握し、ボランティアなどに参加するように促す。 ○今後の体育コース・スポーツ探究類型の取組として、トップアスリート講演会やトップアスリート養成研修会を実施し、競技力向上につなげていく。

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和5年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・生徒会活動の充実	○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。 ○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。 ＜指標＞ 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができる」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○育英祭は、生徒主体で短期集中して準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。 ○新旧執行部が協力して、運動会や球技大会を行い、生徒が主体となった学校づくりを進めた。 運動会では、運動会実行委員会を中心に企画・準備段階から意識をもって取り組めた。 ○10月に行われた運動会では、生徒会執行部を中心に、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。昨年度に続き、集団行動では、2・3年生の体育コースが合同で集団行動に参加し、大成功を収めた。 ＜R5実績＞ ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができる」・・・93%	○生徒会行事をスムーズに進めるため、生徒たちが主体となって運営できるように、早めに育英祭実行委員会を中心に立案・運営を行う。 ○引き続き、行事ごとにルールを遵守し、生徒が主体となって取り組むよう支援する。	○生徒会執行部の活動を継続して行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めている(あいさつ運動やインスタ情報発信など)。 ○育英祭に向けて、クラスLHRの時間が十分に確保できなかったが、実行委員会を中心に生徒主体で準備ができ、成功を収めた。アンケートでは「全体的に良かった」と回答した生徒が92%であった。 ○育英祭では、ルールを守り、各クラスがよくまとまって取り組めた。 ○体育コースの行事については、9月に3年キャンプ実習をテント宿泊ありで3日間で実施できた。	B	○生徒会が主体となり、教室環境の整備やあいさつ運動などに取り組む。その取組を通して、より多くの生徒がより良い学校づくりに主体的に参画する意識を高める。 ○今後の行事となる運動会や球技大会については、企画・準備の段階から生徒に自覚や責任を持たせ、早めに取り組み、成功体験を積むことで、来年度の育英祭の取り組みにつなげていく。 ○体育コース・スポーツ探究類型については、各種実習(スキー・ゴルフ)でも準備の段階から役割等を持つことで、リーダーとしての責任感を育成する。 ○体育コース集会は、機会を捉えて実施する。
	教育活動における安全意識・安全技術の向上	○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 ＜指標＞ 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切に教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○救急救命講習を2月26日に実施し、生徒約100名、教職員約30名が参加した。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月・7月)2学期に1回(10月)3学期に1回(2月)に実施する予定である。その結果は、環境保健部と各学年、管理職で情報を共有し、その後の面接指導に活用した。 ＜R5実績＞ ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切に教育を行っている」・・・87% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・86%	○避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○救急救命講習については、この講習が導入された経緯・趣旨を踏まえて、教職員・運動部員の全員受講を目指して継続していく。 ○「学校生活に関する調査」は、次年度も各学期に1回以上実施し、日常的な保健・相談業務を継続していく。	○避難訓練を6月に実施し、代表生徒による消火訓練等を実施した。10月には地震・津波を想定した避難訓練を実施予定。 ○救急救命講習は、熱中症対策のため夏季休業中には実施せず、冬季休業中の実施を予定している。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月と7月)に実施し、環境保健部と各学年、管理職で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。	B	○校内施設の確認を行い、劣化・破損等による危険な場所がないかどうか点検し、安全確保の徹底に努める。 ○「学校生活に関する調査」は、今後も各学期に1回を目処に実施、生徒の実態把握に努めるとともに、環境保健部と各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。 ○スクールカウンセラーをはじめ、外部機関とも連携し、組織的かつスピーディーな対応を進める。
地域を支える社会人として必要な資質が身につく	「地域探究」の発展・充実	○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。 ○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。 ○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現へつながった。 ＜指標＞ 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「鳥取県(中部/北栄町)」について、知識・理解が深まった」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、 ①「人の役にたつ生き方をしたい」が平均5%以上向上 ②「地域の人と協働できている」、「自分からすすんで地域行事に参加しようと思う」が平均5%以上向上 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。	○1年生:地域探究入門は、18時間の活動を行った。「地域を知る」をテーマに、地域の大人と関わることで地域の一員としての自覚を養った。 ○2年生:地域の方々との協力のもと、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題をみつけ、その解決を考察し、発表にまとめた。 ○3年生:卒業時アンケートにおいて、「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、昨年度より向上して62%だった。 ＜R5実績＞ ・1年生:「鳥取県(中部/北栄町)」について、知識・理解が深まった」・・・89 % ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して1.1%上昇した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・62% 【地元の魅力をたくさん知った】・・・65% 【地元で働きたい】・・・46% 【地元で暮らしたい】・・・48%	○1年生:探究活動への意欲を高めるために1学期にキャリア意識を高める取り組みを行う。そして、「探究入門」の授業を2学期から開始することで、流れの途切れない活動とする。また、客観的な分析に必須である「アンケート」や「インタビュー」の手法について学ぶ時間を取り入れる。 ○2年生:地域探究は、大テーマを提示して各類型ごとに目標設定を行うことにより、探究テーマをより生徒の興味・関心に合うものにしつつ、地域課題解決に貢献できる内容へ近づける。 ○3年生:引き続き、進路別学習や教職員とのこまめな面談を通し、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身のキャリア目標の明確化を図る。	○1年生:年間指導計画通り「地域探究入門」で、課題設定の仕方から調査・探究・まとめ方について学習を進めており、今後フィールドワークも実施する。 ○2年生:年間活動計画通りテーマに沿ってフィールドワークを行い、そこで見つけた課題を整理し、解決法や解決へのアプローチの仕方について調査・研究を行っている。 ○3年生:具体的な志望先を決定し、志望理由書を作成したり、面接対策を行うことを通して2年次に行った「地域探究」を振り返り、学習の成果をまとめている。	B	○1年生:「地域探究入門」を進めながら、地元・北栄町及び琴浦町の協力のもと、次年度の「地域探究」に向けた企画力・実践力を養成する。 ○2年生:1学期に行った「地域探究」の内容をまとめ、12月の類型発表会・1月の校内発表会を通して課題解決力や表現力を養い、自己の進路実現に向けて主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 ○3年生:1・2年次に取り組んだ「地域探究」の内容をベースにしながら、ふるさと鳥取県の良さを再考するとともに、「地域探究」での学びの成果を大学入試や就職試験に活用し、進路実現を目指す。
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。 ＜指標＞ 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について、声掛けを行い、業務内容などの聞き取りや業務量の確認をすることで教職員自身の自覚を促すことで、時間外業務の減少につながっている。 ＜R5実績＞ ・時間外業務が月45時間を超えた教職員は2人、年360時間を超えた教職員は2人。	○引き続き、教職員のシステム入力を徹底し、適宜声掛けを行う中で、時間外業務削減への見通しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。 ○引き続き、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、意識や意欲を高め、限られた時間内での活動の効率化を図る。	○毎月開催する校内衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について確認をし、声かけ等を行っているが、部活動などで業務が集中する時期があった。 〈R6中間実績〉 4月から9月までで時間外業務が月45時間を超えた教職員は1人(R5は2人)、合計180時間を超えている教職員は4人(R5は4人)。	B	○引き続き、時間外業務時間が多い教職員に声かけを行うとともに、業務過多になっていないかどうか確認をし、業務の平準化を図っていく。
	生徒への適切な対応	○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。 ＜指標＞ 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。	○3年生の進路指導を組織的に行えるよう、職員会議等で教職員の共通理解を図った。 ○総合選抜や学校推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ＜R5実績＞ ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員は0人。	○昨年度の進路指導で成果の出た取り組みを継承し、引き続き3年生の進路指導を組織的に行う体制を整え、生徒の個別指導を教職員で協力して行う。	○総合型選抜や学校推薦型入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、特定の教職員に業務が偏らないよう配慮した。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行うことができるように工夫した。 〈R6中間実績〉 9月における時間外業務で、45時間を超える教職員の数は0人(R5は0人)。	B	○引き続き、3年生への個別指導を教職員で協力して行う。